

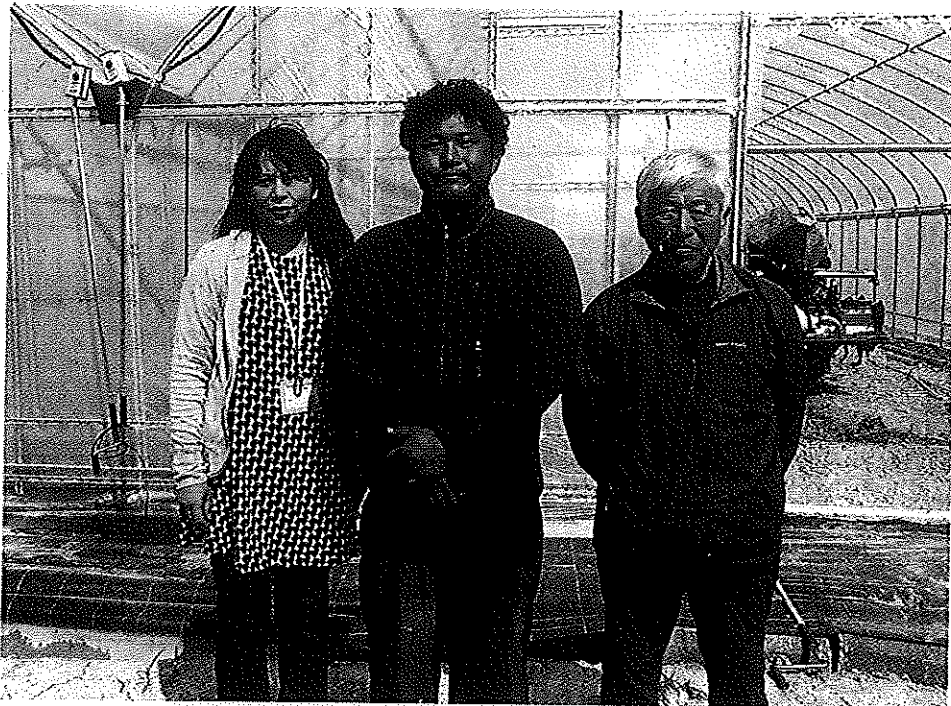
# 新規就農者定着後押し

神戸市農業委員会は、昨年2月から農業委員による新規就農者の見守り活動に取り組んでいる。

## 神戸市農業委員会

### 農業委員が“見守り”地域からの孤立防ぐ

### 耕作状況など把握し記録も



左から湖上委員、菅田さん、大西前委員。農業委員が替わっても継続して見守る体制がとられている

同市では、直近5年間で110人の新規就農者が誕生しているが、地域農業者から「耕作していない農地がある」「地域との関係がうまくいっていない」などの声が寄せられていること

から、新規就農者の地域からの孤立を防ぎ、定着を後押しするのがねらい。

前農業委員の大西増弘さん(72)が2年前から独自に地元の同市西区神出町の新規就農者から営農状況や悩みなどの聞き取りを行い、事務局に報告していた。見守り活動はこれをヒントに農業委員会全体の活動として取り組むことにしたものの。

農業委員は、営農相談や悩みなどの聞き取り、耕作状況の把握をするほか地元ルールなどを伝えることとし、実施結果を記録している。

同市西区神出町で新規就農した菅田賢太郎さん(29)は、「地域に知り合いがいなかった中で、農業委員さんが相談ののってくれた。近くに相談できる相手がいるのは心強い」と話す。大西さんは「地元の付き合いを大切にしてほしい」とエールをおくる。

同市では昨年9月に改選があり、大西さんの後任の湖上由美子委員(52)が定期的に見回っている。湖上さんは「圃場をみればうまくなっているか行き詰まっているかがすぐわかる。注意して見守りたい」と話す。